

原著

2歳児相談における事前問診の語彙チェックリスト作成の試み

- 1歳11ヶ月から2歳11ヶ月の全使用語彙 -

岩本 さき¹⁾，笠井新一郎²⁾，苅田 知則²⁾，長嶋比奈美²⁾，稲田 勤²⁾，
塩見 将志³⁾，間野 幸代²⁾，石川 裕治²⁾，山田 弘幸⁴⁾

Production of a vocabulary checklist for inquiry prior to
counseling for children aged 2 years

- Vocabulary Development in Children aged 23-35 Months -

Saki Iwamoto¹⁾，Shinichiro Kasai²⁾，Tomonori Karita²⁾，Hinami Nagashima²⁾，Tsutomu Inada²⁾，
Masashi Shiomi³⁾，Sachiyo Mano²⁾，Yuji Ishikawa²⁾，Hiroyuki Yamada⁴⁾

要 旨

平成11年度より，香川県坂出市では，1歳6ヶ月児健診で未通過だった子どもの発達状況のフォローを一つの目的として，保健婦と言語聴覚士による2歳児を対象とした発達相談（以下，2歳児相談）を行っている。しかし，実施に際して，評価時間の短さや，子どもの語彙発達を評価する指標がない点が問題として挙げられた。そこで，2歳児相談時にスクリーニングとして使用できる語彙チェックリストを作成することを目的とし，2歳児の語彙発達の現状を明らかにするための調査研究を行った。調査の対象者は，香川県坂出市内の全保育所（12施設）に所属する1歳11ヶ月から2歳11ヶ月の子どもの保護者であり，161名であった。調査においては，名詞・代名詞・抽象語・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・感動詞を含む，全語彙数452個のチェックリストを，調査用紙として用いた。分析を加えた結果，2歳児相談でスクリーニングの指標となる平均語彙数は，2歳0ヶ月児で183.9語，2歳6ヶ月児で288.7語であった。また，2歳9ヶ月～2歳11ヶ月にかけて350語を越えており，グラフはほぼ横這い状態を示した。これらの結果から，今回用いたチェックリストの適用範囲は2歳9ヶ月以前と考察された。

キーワード：2歳児相談，語彙チェックリスト，健診後のフォロー，語彙発達のスクリーニング

1) 回生病院 リハビリテーション科 言語療法室

Department of Rehabilitation, Kaisei Hospital

2) 高知リハビリテーション学院 言語療法学科

Department of Speech, Language and Hearing Pathology, Kochi Rehabilitation Institute

3) もみのき病院 リハビリテーション科

Department of Rehabilitation, Mominoki Hospital

4) 九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科

Language Hearing Treatment Subject of Study, Department of Health and Science, Kyushu University of Health and Welfare

Abstract

In Sakaide, Kagawa Prefecture, “counseling for children aged 2 years” has been provided by public health nurses and speech therapists (ST) since 1999. This service has been aimed to follow up development states of children whom problems were detected in health examination for children aged 18 months. However, there were some problems to work out such as short inquiry time and no parameters to evaluate speech development. Therefore, the purposes of this present study are (a) to research the states of vocabulary in two years old and (b) to produce a vocabulary checklist to be used for screening of speech development retardation in the counseling. Informants of this research were 161 parents whose children were 23-35 months and belonged to 12 nursery schools in Sakaide. In the survey, a checklist of 452 words including nouns, pronouns, abstract words, verbs, adjectives, adjective verbs, adverbs, and interjections was used as a questionnaire. This study focused on quantity of the vocabulary in 23-35 months. According to the results of this survey, the mean of vocabulary in 24 months is 183.9 words, and the mean in 30 months is 288.7 words. Furthermore, the mean in 33-35 months were over 350 words, and the increase of vocabulary stopped. This stop increasing is considered to be influenced by the ceiling effect of the vocabulary checklist. Finally, we discussed this vocabulary checklist can be applied to screening of children before 33 months.

Key words: counseling for children aged 2 years, vocabulary checklist, follow up after health examination, screening for vocabulary development

1. はじめに

1) 2歳児相談実施の背景

近年、障害児の早期発見・早期療育に対して様々な取り組みがなされている。平成9年度には1歳6ヶ月児健康診査（以下、1歳6ヶ月児健診）の法制化が行われたが、1歳6ヶ月児健診では、短時間のうちに対象児とラポートを形成することが困難な場合があり、言語発達の度合いを把握出来ないことが考えられる。伊藤らは全国132市を対象に1歳6ヶ月児健診に関するアンケート調査を行い、システムや制度上の問題、健診内容等の問題にはどの市もほとんど差はみられないが、どのような子どもをスクリーニングし、どのようなフォローをするかということに問題のあることを示唆している¹⁾。1年6ヶ月後には3歳児健診が行われるが、一般に2歳から3歳ごろは言語発達にとって重要な時期であることを考慮すると1歳6ヶ月児健診において、言語発達の度合いを把握出来なかった子どものフォローが問題となってくる。

香川県坂出市では、平成11年度より、1歳6ヶ月

児健診で未通過だった子どものフォローとして、2歳児相談を行っている²⁾。香川県坂出市で行われている2歳児相談は、2歳児の聴覚・言語発達の検診、1歳6ヶ月児健診で未通過だった子どもの、その後の発達状況のチェック、聴覚、言語発達、行動面のチェックによる軽度から中等度聴覚障害、軽度発達障害、高機能自閉症などのスクリーニング、検診後のフォローシステムの整備を目的として、保健婦と言語聴覚士（以下、ST）によって行われている（相談の主な流れに関しては図1参照）。この

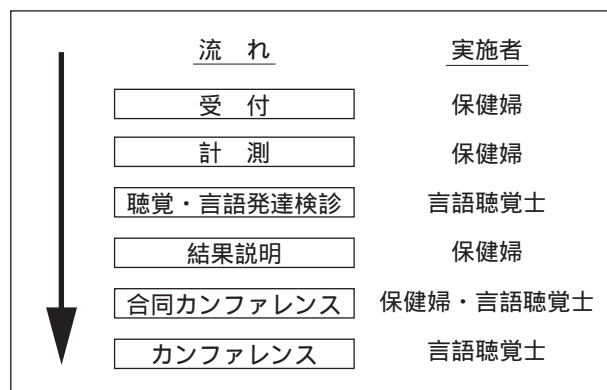


図1 2歳児相談の流れと実施者

うち、ST は聴覚・言語発達検診と合同カンファレンス、カンファレンスに携わっている。

2) 語彙チェックリストの必要性

しかし、2歳児相談を実施するにあたって、いくつかの解決すべき問題点があった。もっとも大きな問題は、一人あたり3～5分で評価を行わなければならないという時間的な制限である。そのような短時間で、人見知りの残る子どもとレポートを形成し、的確に言語発達を把握することは、困難な場合も多々ある。そこで、相談に来所する前に保護者に対して語彙発達に関する問診を行い、評価の際に対象児の使用語彙数を把握する一助とする方法として、事前問診を行って語彙発達のスクリーニングを行うことを考えた。実際の試行に先駆け、スクリーニングのための語彙チェックリストを作成することを目的として事前調査を行った。図2に示したように、事前調査として2歳児相談の案内を送付する際に、子どもの日常生活に関するアンケート用紙を同封し、「50個、70個、100個、200個、300個」の5段階評価で、子どもの使用語彙数を記入してもらう方法を実施した。しかし、保護者も日常的に子どもの語彙数に注意を向けているわけではなく、結果として、曖昧な数値を答えてしまう傾向がうかがえた。そこで、さらに日常生活における語彙チェックリストを同封し、相談に訪れるまでの間に、対象児の表出語彙を保護者になるべく詳細に記録してもらう方法を

考案し、実施した。この方法によって、2歳児相談で対象とする1歳11ヶ月から2歳11ヶ月の子どもの平均的な表出語彙数と品詞の特徴を明らかにできるという調査上の目的と同時に、対象児の表出語彙に対して保護者の注意が喚起されるという臨床的意義も期待された。

3) 語彙チェックリスト作成上の問題点

本調査としての語彙チェックリストを作成する上で問題となったことは、語彙チェックリストに導入する語彙の種類(名詞、代名詞、動詞等)と量(チェックリストに含む語彙の数)であった。小西は5人の子どもを対象として、その母親に表出語彙に関して日誌的(縦断的)手法を用いることにより、語彙数の増加、名詞、代名詞、動詞等の全表出語彙数に占める品詞別の割合についても検討を加えている³⁾。また、高橋⁴⁾や大久保⁵⁾は、自らの子どもを対象として縦断的に2歳児の語彙リストの作成を行っている。しかし、これらの研究は30年から50年近く前の研究結果であることや、高橋と大久保の研究においては、研究者の家庭で育った子どもを対象としていることから、高度情報化が進み、生活環境が激変した現代社会において、そのままの形でリストとして般化し、使用できるかという点に関しては、疑問が残る。したがって、現代社会の使用語彙を反映し、2歳児相談においてスクリーニングが可能な語彙チェックリストを新しく作成する必要があった。

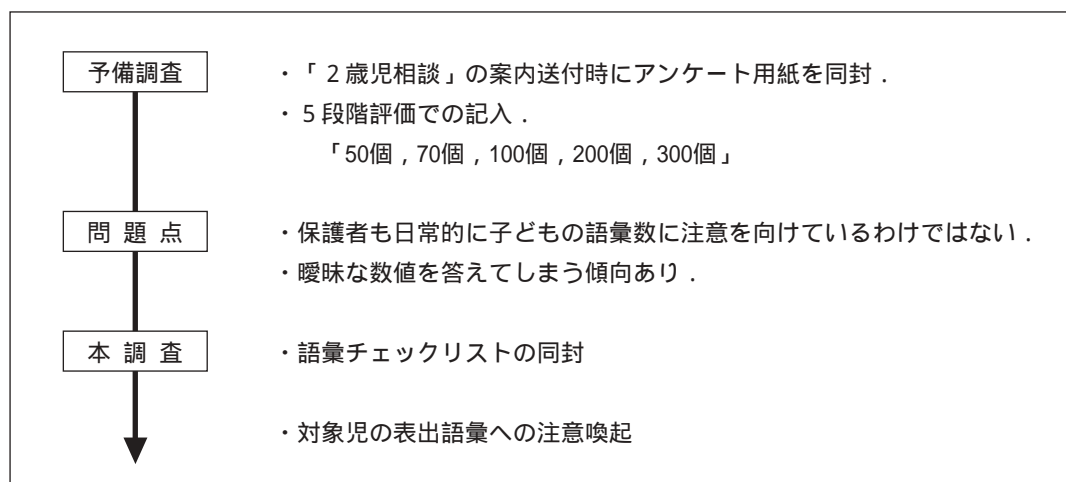


図2 語彙発達スクリーニングのチェックリスト作成の手順

4) 本研究の目的

上述した現状と問題点を踏まえて、本研究では2歳児相談において、スクリーニングの指標として利用可能な語彙チェックリストを作成することを目的とし、作成上の指標となる2歳前後の子どもの語彙発達を明らかにするため、予備的なチェックリストを作成し調査研究を行った。この調査の結果から、語彙チェックリストを作成し、2歳児相談において適用することによって、何らかの言語発達障害を有する子どもや、将来的に学習障害や注意欠陥多動性障害と診断される可能性があり、家庭や保育現場で「気になる子」と考えられている子どもを早期発見・早期療育する手がかりとなるだろう。なお、語彙チェックリスト作成に関する検討のうち、本稿では、特に保育所における調査から、語彙チェックリストの妥当性と適用年齢を検討するとともに、1歳11ヶ月から2歳11ヶ月の子どもの全体的な語彙発達を概観することを目的とした。語彙チェックリストに含まれる各品詞の種類や語彙発達上の特徴に関しては、荻田ら⁶⁾ほか、一連研究として本紀要内に投稿した論文で議論しているので参照されたい。

2. 方法

1) 調査協力者：香川県坂出市内の全保育所（12施設）に所属する1歳11ヶ月から2歳11ヶ月の子どもの保護者、161名。

2) 調査時：2000年3月初旬。

3) チェックリストの作成：調査で用いたチェックリストの項目は、大久保⁵⁾が作成した2歳児の語彙リストと、三省堂『こどもことば絵じてん』⁷⁾を参考に作成した。チェックリストに含まれる全語彙数は、452個で、品詞としては、名詞・代名詞・抽象語・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・感動詞などを導入した（資料参照）。

4) チェックリストの回収率：公的機関である保健センターからの依頼という形を取ったため、調査用紙の回収率は100%であった。

表1 調査対象児の月齢による分布

生活年齢	男	女	合計
CA 1:11	7	4	11
CA 2:0	4	6	10
CA 2:1	11	6	17
CA 2:2	14	8	22
CA 2:3	5	11	16
CA 2:4	13	7	20
CA 2:5	11	6	17
CA 2:6	4	6	10
CA 2:7	6	1	7
CA 2:8	9	3	12
CA 2:9	1	7	8
CA 2:10	3	3	6
CA 2:11	2	3	5
合計	90	71	161

3. 結果

1) 調査協力児の月齢分布

調査に協力の得られた対象児の年齢層は、もっとも人数の少ない月齢が2歳11ヶ月の5名で、もっとも人数の多い月齢が2歳2ヶ月の22名であった。生活年齢間に人数の差はみられるが、分析の対象とするのは、2歳0ヶ月児10名、2歳6ヶ月児10名、2歳10ヶ月児と2歳11ヶ月児をあわせた11名である。これは、2歳児相談で来所する子どもの99%が生活年齢2歳0ヶ月±1ヶ月と限定されていることや、スクリーニングとして用いることから、節目となる年齢を取り上げ、それぞれの生活年齢での語彙数や内容を検討するためである。なお、調査協力者の月齢の分布に関しては、表1に示しているので参照されたい。

2) 各月齢の平均表出語彙数

回収されたアンケート用紙から、養育者がチェックリストで対象児が表出していると回答した語彙について、個人毎の総計とともに、月齢毎の平均表出語彙数を算出した（図3参照）。なお、本研究におい

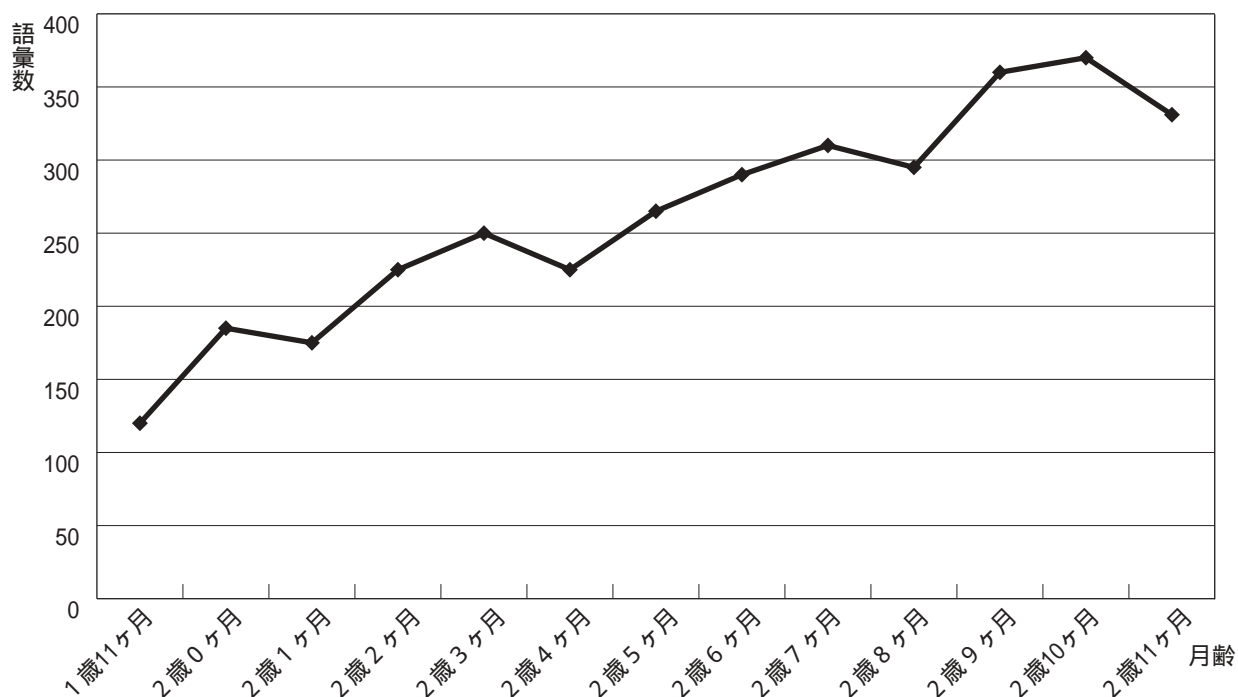


図3 月齢による表出総語彙数の変化

では、あくまでも2歳児相談におけるスクリーニングにおいて指標となる表出語彙数の目安を見いだすことが目的である。確かに、近年の発達検査や知能検査作成の流れをみると、統計処理から有意に発達遅滞（言語発達遅滞や精神発達遅滞など）が疑われる値を設定することが多いが、本研究においては、各月齢に属する対象児の数が少ないことなどから、隔月例における表出語彙数の分布や標準偏差を用いた統計的表記は不適切と判断した。したがって、月齢毎の表出語彙数の平均値を算出し、月齢による変化を示すこととした。

さて、結果に話を戻すと、各月齢における平均表出語彙数を示した図3をみると、緩やかな右上がりの増加を示している。この表から語彙数を読み取ると、2歳児相談でスクリーニングの指標となる2歳0ヶ月の平均語彙数は183.9語、2歳6ヶ月の平均語彙数は、288.7語となっている。この結果に関する考察は、後の考察で詳しく述べるが、先行研究の多くは、およそ2歳0ヶ月における表出語彙数は200～300語くらいとしており、その語彙数に比べると若干少ない語彙数を示している。また、2歳9ヶ

月～2歳11ヶ月にかけて、350語を越えてからは、グラフはほぼ横這い状態となっている。

3) チェックリストの項目と表出語彙の関係

次に452語用意したチェックリスト中、表出語彙の占める割合を図4に示したが、1歳11ヶ月から2歳6ヶ月までは用意した452個の語彙中、60%未満の言語表出の範疇にあり、今回作成したチェックリストで十分に言語発達を把握することができるのではないかと考えられた。一方で、2歳9ヶ月を境として、全語彙数のうち、70%を越えて語彙が表出されると回答されており、全語彙数に占める割合も、語彙の増加も横這いとなっている。チェックリストの中には、2歳児の表出語彙を調べるチェックリストとしては適さない語も含まれている可能性を考えれば、このことは、2歳9ヶ月以降は、用意したチェックリストだけではとらえきれないほど子どもの語彙が増加しており、チェックリストの天井効果であると考えられる。

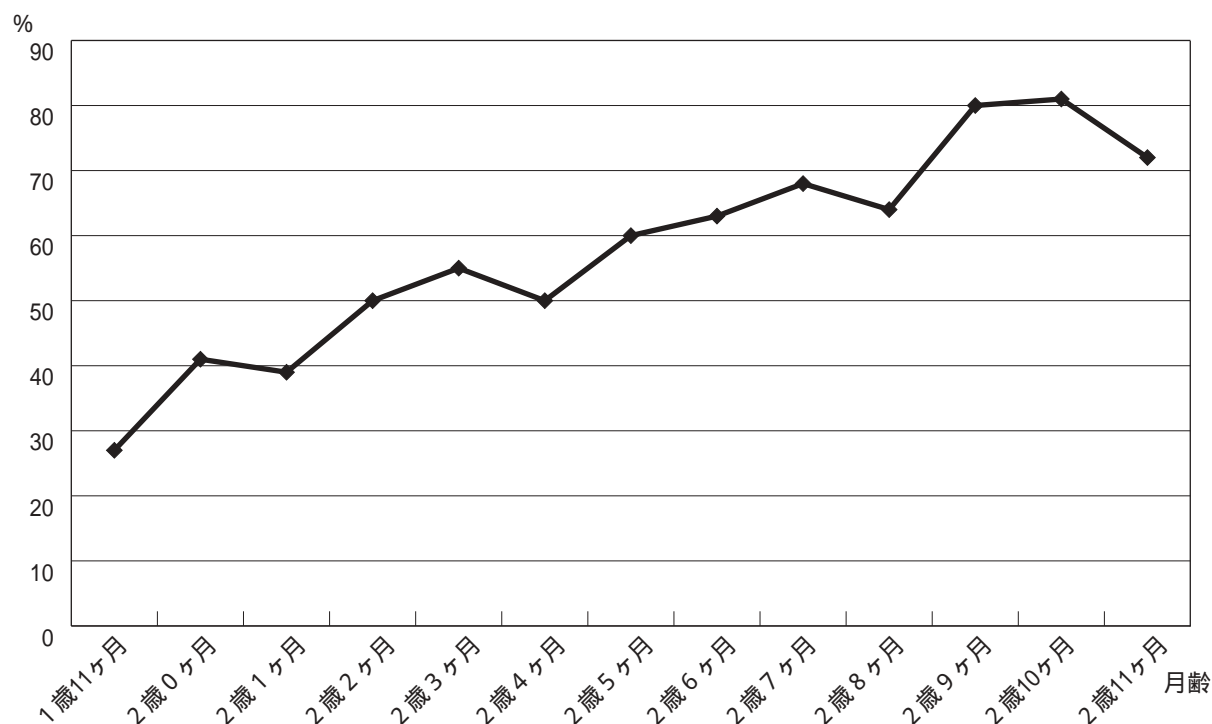


図4 月齢によるチェックリスト452語中の表出語彙の占める割合

4. 考察

チェックリストの妥当性に関して、今回の調査から2歳0ヶ月児の平均表出語彙数が183.9語という結果が得られた。これは、先行研究である Smith⁸⁾、高橋⁴⁾、大久保⁵⁾の研究で272語から360語の語彙が表出されたという知見と比べると、若干少ない値となっている。このギャップに関して、先行研究は、1事例、もしくは少数の子どもを縦断的に観察して表出語彙をカウントしていく方法をとったのに対して、本調査においては質問紙形式のチェックリストを指標として用いており、用意したリストの語彙数に回答される語彙数が影響されるという、質問紙法という研究方法の特徴と制限が加わったためと考えられる。

しかし、その一方で、先行研究で得られた知見は、前述したように、縦断的研究によって得られたものであり、月齢相当の語意発達を調べる上で、データを般化して使用するには、調査環境、調査の行われた年代等の要因で問題が残る。その意味で、今回用いたチェックリストによる質問紙を用いることで、より広範なデータ収集や語彙発達の評価が可能とな

るという利点が考えられる。今回のチェックリストは2歳児相談におけるスクリーニングを円滑に行うための補助的な方法であり、チェックリスト単体で用いるのではなく、保健センターにおいて行う面接式の評価とあわせて用いることを考えれば、こうしたメリット・デメリットを補いあいながら2歳児の語彙発達を理解することが可能であると考えられる。

次に、チェックリストの適用年齢について、1歳11ヶ月から2歳6ヶ月の子どもは、チェックリストの60%未満の語彙発達の範疇に収まっており、グラフは右上がりの増加を示した。一方、2歳9ヶ月以降はチェックリストに含まれる70%~80%の語が表出している語彙として回答されており、増加は横這い状態となっている。これはチェックリストの天井効果であることが考えられ、本調査で用いたチェックリストの限界であると考えられる。しかし、2歳児相談に来所する対象児は、あと1週間以内で2歳の誕生日を迎える、限りなく2歳0ヶ月に近い1歳11ヶ月児から、2歳1ヶ月未満児までと、生活年齢が2歳0ヶ月ちょうどの子どもがほとんどであるため、スクリーニングの手段として用いるチェックリ

ストとしては、十分に妥当性を持っていると考えられる。したがって、このチェックリストから、現代の社会事情にあわない語や2歳0ヶ月児には理解困難な抽象度の高い語など、2歳児相談のスクリーニング項目として不適切な語を省略するなどの、若干の修正をくわえることで、スクリーニングとして利用することができると思われる。

引用文献

- 1) 伊藤英夫, 松田景子, 近藤清美: 1歳6ヶ月児健康診査における発達障害児のスクリーニング・システムとそのフォロー体制に関する全国実態調査 小児の精神と神経 34(3): 107-122 1994.
- 2) 笠井新一郎, 岩本さき, 長嶋比奈美, 稲田 勤, 山田弘幸, 鈴木 啓, 石川裕治, 苅田知則, 間野幸代, 福永一郎, 實成文彦: 「2歳児相談」における聴覚・言語発達検診の試行, 日本公衆衛生雑誌 第59回日本公衆衛生学会総会抄録集, vol. 47, No. 11, p554, 2000.
- 3) 小西輝夫: 幼児の言語発達 児童精神医学とその近接領域 1(1): 62-74 1960.
- 4) 高橋 巖: 幼児の言語の発達, 東京堂出版, 1967.
- 5) 大久保愛: 幼児言語の研究 - 構文と語彙, あゆみ出版, 1984.
- 6) 苅田知則, 笠井新一郎, 岩本さき, 長嶋比奈美, 稲田 勤, 塩見将志, 間野幸代, 石川裕治, 山田弘幸: 2歳児相談における事前問診の語彙チェックリスト作成の試み - 文法カテゴリーによる分析: 名詞 -, 学校法人高知学園高知リハビリテーション学院紀要, 第2巻, p33-39, 2001.
- 7) 金田一春彦監修: 三省堂こどもことば絵じてん, 三省堂, 東京, 1996.
- 8) Smith, M.E.: An investigation of the development of the sentence and the extent of the vocabulary in young children. University of Iowa Study of Child Welfare, 3 Stern, C. & Stern, W. 1907 Die Kindersprache. J.A. Barth. 1926

資料 2歳児のことばチェックリスト

お子さんがお家でおしゃべりしている言葉に をつけてください。他にもあれば()に書き込んでください。むにゃむにゃとはっきりしないことばや、ことばの一部だけ(りんごの「ご」だけを言う)の場合や、幼児語でもかまいません。

各項目ごとにことばの数を記入し、最後に全部をたして、合計を出して下さい。

お子さんの生年月日(H 年 月 日) 男・女 記入日(H12年 月 日)

1 名詞

(1)自然界に關することば

自然界および自然現象

いけ いし うみ かみなり かわ けむり こおり ひ

動物(家畜、無視、架空の動物なども)

あひる いぬ うさぎ うし おに おばけ かえる かに かば かめ きりん きんぎょ くま
さかな さる すずめ ぞう ちょうちょ ねこ ひよこ むし

植物

たんぽぽ ちゅーりっぷ はな

(2)日常生活用語

身体の名称および現象

あたま かお かぜ(風邪) かた かみ くち けが こえ した(舌) ち(血) て おてて
なみだ はだか はな びょうき ほお(ほほ) みみ ゆび

食べ物・飲み物

あいすくりーむ いちご おかず おやつ かし(おかし) ぎゅうにゅう くすり けーき
ごちそう ごはん じゅーす せんべい だいこん たまご ちょこれーと にく ぱん まめ

身につけるもの

えぶろん かさ かばん きもの おべべ くつ くつした げた しゃつ すかーと ずぼん
すりっぱ ぼうし ぼけっと めがね ようふく りぼん

家具、用具

おかね さじ(スプーン) さら すいどう たおる てれび でんわ とけい ばけつ はし(箸)
ひも はり ふとん まくら まっち ろうそく

住居、へや

げんかん にかい にわ やね べんじょ といれ

素材、その他

ごみ

(3)社会生活および行為

人間

あかちゃん いしゃ おかあさん おじいさん おじさん おとうさん おばあさん おばさん

おやこ きゃく こども さんたくろーす じぶん ともだち にいさん ねえさん やおや(さん)

ゆうびん屋さん

人間の活動および行為

おかわり おじぎ けんか さんぽ しごと せんたく そうじ だっこ たっち まつり むかえ
みやげ やすみ ようじ るすばん

あいさつ

おはよう ごめん こんにちは さようなら いらっしゃい

公共物（地名も）

がっこう すなば とんねる ぽすと ゆうえんち

(4) 文化的活動および行為

遊び

じゃんけん ままごと

玩具・遊具

えほん おもちゃ かみしばい すず たいこ たこ つみき にんぎょう ふうせん ぶらんこ
ぼーる

乗り物とその周辺のもの（固有名詞も）

おーとばい きしゃ きつぷ さんりんしゃ じてんしゃ じどうしゃ ぶーぶー しゃしょう
しょうぼうじどうしゃ でんしゃ とらつく ばす ひこうき ふね ぼーと

文化的用具および行為

うた え えんぴつ おどり おりがみ かみ（紙） くれよん じ（字） しゃしん しんぶん
てがみ なまえ ねがい はなし ほん

(5) 抽象語ほか

数（量）ほか

さん（3） はんぶん ひとり ひとつ みっつ

色

あお あか

形

まる

位置・方角

うえ そば（近く） そと ところ（あるところ） なか ほう（先） さっき しまい（おしまい）
とき（遊ぶとき） どうようび

その他

きもと こと（できごと） もの わけ

2 代名詞

あっち それ ここ こっち これ そこ そこら そっち だれ どこ どっち どれ ぼく みな
みんな わたし わたしたち

3 動詞

あく（開く） あける あげる いう いく いじめる いじる いらっしゃる いる（居る） いれる
おいで おきる おく（置く） おこる おっしゃる おしえる おどる おもう おりる
おる（折る） かう（買う） かえる かく（書く） かける きる（切る） ください くる くれる

こぐ こぼす こぼれる こまる ごらん ころぶ こわす さく さす しなさい しぬ しまう
しめる しる すてる すべる すむ(済む) すわる ちょうだい ちらかす つかれる
つく(付く) つくる つける つつむ つなぐ つれる でかける である とぶ(飛ぶ)
とぶ(跳ぶ) とまる(止まる) とりかえる とる とれる なおす なおる なく なげる なる
にぎる にげる ぬぐ ぬる ねる のこす のこる のぼる のむ はいる はく(履く)
はく(掃く) はじまる はしる はなす ひっかく ひっぱる ひらく ふく(吹く) ふる(降る)
まつ みえる みる むく(向く) もえる もやす もつ もらう もらす やく やける やぶる
やぶれる やめる やる よぶ わかる わける わすれる わらう

4 形容詞

あおい あかい あつい(熱い) あぶない あまい いい(よい) いけない いたい うまい
うれしい おいしい おおきい おかしい こわい さむい すごい すこし すっぱい たかい
ちいさい つまらない つめたい すごい ない ながい ねむい ほしい まるい よい わるい

5 形容動詞

いや おなじ きらい きれい じょうず すき そう(そうよ) だいきらい だいじょうぶ
だいすき たくさん だめ へん(変) りこう ばか

6 連体詞

この こんな その そんな どんな

7 副詞

いっしょ いっぱい すぐ ずっと こう(こうやるの) そう(そうすればいい)
どう(どうやって) そっと ちゃんと ちょっと どうして はやく また まだ もう やっぱり
よく

8 接続詞

それで そして それから だから だって

9 感動詞

あ! はい もしもし ほら

注)紙面の関係上、合計を記入する欄を省略し、レイアウトを変えた。